

氏 名 武村 佳奈子

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第 235 号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 3 条第 1 項

学 位 授 与 年 月 日 平成 3 1 年 3 月 8 日

学 位 論 文 題 目 二次救急医療機関の救急外来において救急看護認定看護師が
重要と考える看護実践

審 査 委 員 主査 教授 相見 良成

副査 教授 宮松 直美

副査 講師 喜多 伸幸

論文内容要旨

※整理番号	240	(ふりがな) 氏名	たけむら かなこ 武村 佳奈子
修士論文題目	二次救急医療機関の救急外来において救急看護認定看護師が重要と考える看護実践		
<p>【研究の目的】</p> <p>二次救急医療機関の救急外来で熟練した看護師が重要であると認識している看護実践を明らかにすることである。</p> <p>【方法】</p> <p>近畿地方の二次救急医療機関で看護実践しているまたは、実践経験がある救急看護認定看護師取得後2年以上の救急看護認定看護師を対象にデルファイ法を用いて計3回の郵送による自己記入式無記名の質問紙調査を行った。第1回調査は調査項目以外に研究対象者が考える重要な看護実践を自由記載で求めた。第2回調査は、第1回調査項目に自由記載で得られた13項目を追加し、第1回調査結果とともに調査票を送付し、回答を求めた。第3回調査も第2回調査と同様に実施した。回答は、項目ごとに5段階のリカートタイプ評定尺度で求め同意率とした。同意率は、51%以上を合意とした。</p> <p>【結果】</p> <p>分析対象は、第1回調査57名(回収率81%)、第2回調査41名(回収率82%、脱落率29%)、第3回調査34名(回収率70%、脱落率30%)であった。特に重要であると同意が得られた看護実践は、3のサブカテゴリーと4のカテゴリーに分類した。カテゴリーは、【生命の危機的状況を判断し対応する】【情報共有】【家族への終末期ケア】【患者個人を尊重して関わる】であった。重要であると同意が得られた看護実践は、16のサブカテゴリーと6のカテゴリーに分類した。カテゴリーは、【患者が今後の見通しを立てるための援助】【多職種との連携】【患者の管理と環境調整】【患者に関する情報収集】【患者への精神的ケア】【家族との関わり】に分類した。</p> <p>【考察】</p> <p>二次救急医療機関の救急外来の看護実践の特徴は、生命の危機的状況を回避する看護実践を基盤とし、多職種と協働し地域での生活と医療をつないでいく看護実践であることが示唆された。</p> <p>【総括】</p> <p>二次救急医療機関の救急外来看護実践における看護実践の特徴が明らかとなった。今後は、看護体制の充実と救急看護認定看護師がリーダーシップを発揮し、看護師の教育を担っていく必要があると考える。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200字程度)